

# ウィンさんビックさん (大経高)入賞

大学生の部  
留学生特別賞

ウィンさんはミャンマー出身、ビックさんはベトナム出身の留学生。「持続可能な観光」留学生から見たおもてなし」と題して、日本のおもてなしについて論じた。

2人は飲食店でのアルバイトや昨年夏に長野県白馬村のホテルでのインターンシップをした経験から「日本のサービスは過剰すぎる」という思いを抱いた。ホテルでもに働いていた外国人8人に聞き取り調査を行ったところ、同じ考えを持つていることが分かったという。

論文では「日本には『お客さまは神様』という風潮があるが、本来のおもてなしは『相手の立場に立ち、相手

に合わせて気配りをすること』ではないか」と主張している。

コンテストは2006年から毎年開催。今回は大学生と高校生の両部門に計1925編の応募があった。論文審査で各部門上位4編が選出され、新型コロナウイルス感染症予防のため、最終審査はオンラインによるプレゼンテーションで行った。ジャーナリストの池上彰さんが特別審査委員を務めた。

次代を担う若者が未来社会の姿を提案する第15回NRI学生小論文コンテスト(野村総合研究所主催)の大学生の部で本県から、ともに高崎経済大地域政策学部3年のウィン・ウィン・ピュさん(24)とグエン・ティ・ビックさん(23)が留学生特別賞を受賞した。2人は初めて執筆した論文が入賞し、「自分たちの伝えたいことがうまく日本語で表現できているか不安だったので、とても驚いた。考えを評価してもらえてうれしい」と喜んでいた。



留学生特別賞を受賞したウィンさん(左)とビックさん